

「漆を使った草木染め体験」を開催

府民の皆さまに丹波漆や緑化センターの取組への理解を深めていただくため、「NPO法人 丹波漆（高橋治子理事長）」と共催で、「漆を使った草木染め体験」を10月30日に開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前・午後の2部制とし、各8名の16名限定で参加者を募集しました。

当日は親子連れなど16名が参加し、廣居緑化センター長から丹波漆の1300年の歴史や特色、復活に向けた取組を紹介した後、漆の木のチップを煮出した染液で、マスクとエコバッグの絞り染めを体験しました。

参加者は、講師で能登草木染め研究室を主宰する新谷茂・幸子夫妻から、「漆の木の中心部分がかぶれず、漆掻きが終了し伐採した漆を使った草木染めは、染めやすく、きれいな色が長くもつ」といった話を聞きながら、思い思いの作品を染め上げることができ、丹波漆の新たな魅力にふれる一日となりました。

当センターでは引き続き、研究や体験会をとおり、日本の伝統・文化を支える丹波漆の振興を支援していきます。



廣居センター長のお話



漆のチップ



漆を使用した草木染め



作品を前に記念写真